



EUCALIA

Partner's Report

— SDGs —

EUCALIA Sustainability

ユカリアグループは当社のビジョン「ヘルスケアの産業化」を目指す上で、企業の社会的責任を深く自覚し、日常の業務遂行において関係法令を遵守し、社会倫理に適合した行動を実践しています。

EUCALIA SDGs

ユカリアグループは、2030年までに世界が達成すべき17の目標と169のターゲットからなる持続可能な開発目標 (SDGs) に貢献する取り組みを進めています。

私たちは創業当初から、より持続可能性があり強靱な医療・介護インフラの構築を目指して活動してまいりました。その活動は常に自社だけでなく、社会や地域にとって有益となるような意思決定に基づき、共通価値の創造 (CSV) をしてきました。これからも医療・介護の現場と向き合い続け、地域医療および皆さまの健康で幸せな暮らしを支えていきます。

発刊によせて

ユカリアは「変革を通じて医療・介護のあるべき姿を実現する」というミッションのもと創業以来、病院という社会インフラを守り、より強固なものへと変革させることを目指してまいりました。

そのような中、近年、地球規模で様々な社会課題が深刻化しております。国際社会全体でサステナブルな社会の実現を目指す中、ユカリアもこれまでの取り組みを、国連が定めた持続可能な開発目標 (SDGs) を踏まえた「EUCALIAサステナビリティ」として明文化し、公表することといたしました。

様々な社会課題解決に向けてのチャレンジは、社会を発展させるのみならず、病院事業としての持続性を高めることにも繋がり、我々の掲げる「ヘルスケアの産業化」というビジョンの実現に向けた取り組みそのものとなります。

ユカリアのパートナー病院に目を向けてみますと、皆さまが地域社会における医療提供体制を支えていることで、サステナブルな社会の実現を後押ししていることは疑いようありませんが、実は、それ以外にも環境やジェンダーなど多岐にわたり課題解決に取り組まれています。その活動をステークホルダーの皆さまに知ってほしい、と今回「ユカリアパートナーズレポート」を発刊することにいたしました。

本レポートをきっかけにSDGsについて改めて考えてくださった病院もあると伺っています。本レポートがパートナー病院の発展に少しでもお役に立つことを願っております。最後になりますが、理事長・院長をはじめ、取材や執筆などで多大なるご協力を賜りましたパートナー病院の皆さまに、厚く御礼申し上げます。



株式会社ユカリア
代表取締役

古川 淳

SDGsとは

持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals)

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中の、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。

このようにSDGsは政府によって合意された目標ですが、その達成は全ての社会や企業、人々が果たす役割が大きいと認識されています。

つまり私たちが法人として、それぞれの中核事業を通じて地域の、ひいては地球の持続可能な開発に貢献することができます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



INDEX

EUCALIA Partner's Report

— SDGs —

	EUCALIA Sustainability	2P
	SDGsとは	3P
	医療法人新青会 川口工業総合病院	5P
	医療法人北仁会 石橋病院	6P
	医療法人社団善衆会 善衆会病院	7P
	医療法人 武蔵野総合病院	8P
	医療法人北仁会 旭山病院	9P
	医療法人豊和会 新札幌豊和会病院	10P
	医療法人ユカリア沖縄 かな病院	11P
	医療法人秋桜会 新中間病院	12P
	医療法人浩生会 舞子台病院	13P
	EUCALIA Partner	14P



あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

3 2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。

国内初の民間病院による新型コロナ専門病棟



医療法人新青会 川口工業総合病院

【所在地】 埼玉県川口市青木1-18-15

【診療科目】 内科、循環器内科、神経内科、消化器内科、消化器外科、外科、血管外科、乳腺外科、整形外科(人工関節センター、スポーツ関節鏡センター併設)、耳鼻咽喉科、眼科、泌尿器科、皮膚科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、救急科

【病床数】 199床



2020年6月新型コロナ専門病棟開設

2020年4月、初の緊急事態宣言の真っ只中に新型コロナクラスターが発生した当院では、行政すら明確な指針を持たない中、新型コロナ専門病棟の開設に踏み切った。

当初の課題

- 知識・経験不足 ⇒ ユカリア「新型コロナ トータルサポート」の導入、情報収集、行政との連携
- 感染防護用具の不足 ⇒ ユカリア「資材調達・物流サポート」による調達、他パートナー病院からの差入れ
- 施設が感染症受け入れに対応していない ⇒ 駐車場に発熱外来テントを設置
- 誹謗中傷や問い合わせの電話が殺到
 - ▶ 職員への風評被害
 - ▶ 看護師が問い合わせ対応に拘束(患者側の理解不足)

新型コロナ患者受け入れフローを作成

新型コロナ患者受け入れの3ステップ

当院に限らず、中小規模病院の大半は感染症の専門医もおらずパンデミック対応については知識・経験不足である。そのような中、3つの課題を解決することで新型コロナ患者の受け入れを実現した。

①職員問題

重要なのは、新型コロナに関する院内ルールを策定し、全職員に共有、運用を徹底させること。翌日にエビデンスが変われば、その都度ルールと職員の意識に修正をかける。

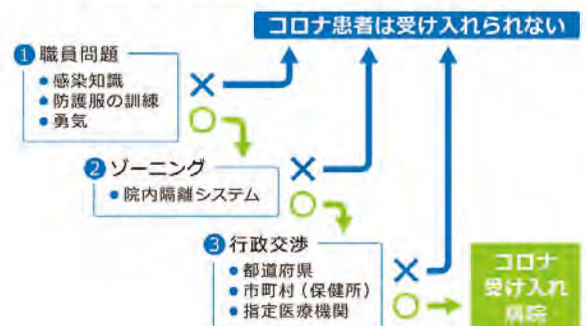
②ゾーニング

新型コロナ患者を隔離するため、徹底的なゾーニングを行った。当院はゾーニングに必要な設備が不十分だったので、発熱外来テント(写真)を設置した。ここでも職員がゾーニングのルールを徹底することがポイントとなる。

③行政交渉

新型コロナ患者を受け入れる前提として、指定医療機関の認定が必要となる。この行政手続きを経た上で、さらに都道府県と保健所を持つ市町村それぞれと交渉を繰り返す。エビデンスによって都度ルールが変更されるので医事部門で柔軟に対応し、その都度職員へ共有することで患者ケアに注力できる環境を整える。

病院がコロナ患者を受け入れるまでのフロー



地域医療のエコシステムの構築

最前線の看護師らの日々の奮闘により、当院はコロナ受け入れ病院として次第に認知され、運営、経営の打撃も乗り越えることができ、院内の結束はこれまでになく高まった。蓄積したノウハウはユカリアの全パートナー病院で活かされている。今回の経験で、中小病院にとって重要なのは感染症に限らず、常に地域医療のベスト、独自のエコシステムを完結させることだと学んだ。そういった努力が地域との信頼関係を構築し、結果的に高い質の治療にも繋がると考えている。



独自のマルチアディクションプログラム

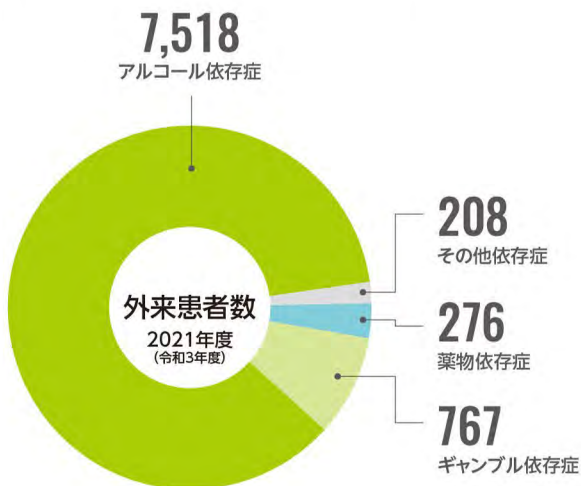


医療法人北仁会 石橋病院

[所在地] 北海道小樽市長橋3丁目7-7
 [診療科目] 心療内科、神経科、精神科、内科、歯科
 [病床数] 372床

地域に根差した依存症治療病院として

- 1972年(昭和47年)からアルコール依存症の専門治療を行ってきた
- 北海道から「依存症治療病院」の認定を受ける
- 断酒治療を目的としたアルコール専門病棟を有している
- 札幌だけでなく全道の患者が入院治療に訪れる
- 近年は専門外来での節酒治療も行っている



i-map(いしばし式マルチアディクションプログラム)

当院ではアメリカ発の治療プログラム、「ミネソタモデル」と「マトリックスモデル」に「地域性」を加味した独自の認知行動療法の治療プログラム「i-map(いしばし式マルチアディクションプログラム)」を提唱。

教本(ハンドブック)を用いたプログラムの他にも写本やグループワーク、作業療法やロールプレイなど、それぞれの患者に合った様々な治療を行う。また行政や組織、他の医療機関と連携することで、当院の専門性は地域にも広く認知されている。



退院後は訪問看護でケア

患者がプログラムを経て退院しても、現実社会は思う通りに行かないことも多い。そこで当院では訪問看護を通して利用者が家での生活に慣れ、新しい生き方を身に付けるのを補助している。単にアルコールを飲んだ、飲まないといった管理をするのではなく、社会で暮らす中で感じたことを一緒に考え、悩み、喜びを分かち合うことで再発予防に取り組んでいる。利用者からも「一人の時間が少しでも減って気持ちが楽になった」「自分の考えや行動を見直すことができた」という声が聞かれている。

多様化する依存症と向き合う

患者と最後まで向き合い、地域社会に貢献することが当院の特色であり価値である。

近年はアルコールだけでなく様々なアディクション(ギャンブル・買い物・インターネット・ゲームなど)、対人関係の問題(共依存・AC・DVなど)の相談が増加しており、それぞれの専門性を高めるためのより一層の研鑽が必要となっている。

さらに医療行為に限らず「こころの健康やストレスと上手に付き合う生活の方法」を提供するなど柔軟な対応をすることで周囲からの理解と連携を得ながら、引き続き地域社会に貢献していきたい。



全ての人への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

健康公開講座の開催



医療法人社団善衆会 善衆会病院

[所在地] 群馬県前橋市筑井町54番地1
[診療科目] 整形外科、泌尿器科、内科、外科、麻酔科、リハビリテーション科
[病床数] 198床

健康公開講座への取り組み

当院の主力である整形外科やリハビリテーション科、人工透析などは、病院での治療以外にも日常生活での取り組みや正しい知識が必要な場面が多くある。

そこで当院では患者をはじめ広く一般の方々に向けた「健康公開講座」を開催してきた。市民講座にも積極的に登壇し、地域の人々へ最新の健康情報を提供している。

公開講座の一例

リアル開催

- 市街地のショッピングモールでの公開講座
- 公民館での公開講座

オンライン開催

- 民間企業主催のウェビナー
- YouTube 公式チャンネル
 - ▶ オンライン健康講座
 - ▶ おうちリハビリ (筋トレ)



オンライン講座の浸透に向けて

近年のコロナ禍を受けて、現在ではオンライン講座も整備。オンライン講座は、そのまま診療・治療の補足資料として使うことができる。診察室で過不足なく説明したとしても、一般の人が詳細や専門用語を覚えておくことは難しいし、家族や保護者が改めて知りたいということもある。こういった際に当院ではYouTube公式チャンネルを資料として提供している。

特に自宅で何度も繰り返す必要があるリハビリテーションについて、理学療法士が実際に動いて見せる『おうちリハビリ』の動画は若い患者を中心に繰り返し視聴されている。

一方で年配層が対象になる『オンライン健康講座』の視聴は伸びが鈍い。地方の年配者層にとってインターネットや動画は未だ敷居が高いようだ。そこで、開催告知の案内を配布する際に、オンライン講座用に「動画の見方」、「LINE登録の仕方」といったスタートガイドも掲載している。オンライン講座へのアクセスが増えることは最終的に地域の健康維持に繋がるので、これからも積極的に取り組んでいきたい。





ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女兒の能力強化を行う

- 5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。

看護協会支部長として女性リーダーを育成



医療法人 武蔵野総合病院

[所在地] 埼玉県川越市大袋新田977-9
[診療科目] 内科、外科、脳神経外科、神経内科、循環器内科、泌尿器科、形成外科、整形外科、リハビリテーション科
[病床数] 185床



地域で連携して看護の質向上に取り組む

看護職は女性が活躍できる職種として広く認知されている。管理職となり看護師のマネジメントに取り組む女性も多い。当院の筒井看護部長もその一人。パートから6年余りで当院の看護部長に抜擢され、今では埼玉県看護協会 第3支部 支部長も兼任し、地域の看護師のリーダーとして看護の質向上に取り組んでいる。支部長の業務は、支部総会の実施から研修会の開催、広報誌の発行など、多岐に亘る。コロナ禍においても、看護の質向上への意欲・機会が失われないように、講演会や研修会をオンライン配信に切り替え、YouTubeでの閲覧ができるようにするなどして、これまで以上に多忙となった看護業務の合間に参加できる工夫をこらしている。

看護協会に参加するメリットの一つに、副支部長や近隣病院の看護部長と連携できることがあげられる。ともすれば、リーダーとして一人で判断する場面も多い人達が気軽に意見交換できる場を提供できることはとても有益である。COVID-19感染拡大に人手不足に陥った時の対応など、他病院の実例を踏まえたうえで検討することで、より良い判断ができる仕組みができています。

女性リーダーのさらなる育成

地域の看護師のリーダーを担う筒井看護部長を筆頭に、当院では質の高い看護の提供ができるよう、リーダーの育成に力を入れている。

看護協会が提唱している「看護師のクリニカルリーダー」を当院も取り入れ、主任・師長クラスまでカバーした教育体制を整備した。さらにリーダーシップは座学だけではなく、現場に出て実地で学ぶことが重要ということで、ローテーション研修を導入。病棟・外来・手術室をローテーションすることで、スキルアップおよび部署間の連携強化を図っている。この研修は人事評価に組み込まれており、職員も意欲的に取り組んでいて、これを機に手術準備を外来の看護師がサポートするようになるなど、良い効果が表れている。

地域との連携としては、近隣病院との合同研修を実施している。外来スタッフが相互に訪れ、実地研修を行うことで、研修先の病院運営の良いところを学びあう場となっている。

当院は中小規模病院ではあるが、このように支部や近隣病院と連携をすることで、地域医療体制を看護の側面から牽引するリーダーの育成に繋げている。





全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへの アクセスを確保する

1 2030年までに、安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。

省エネルギーの新病棟建設



医療法人北仁会 旭山病院

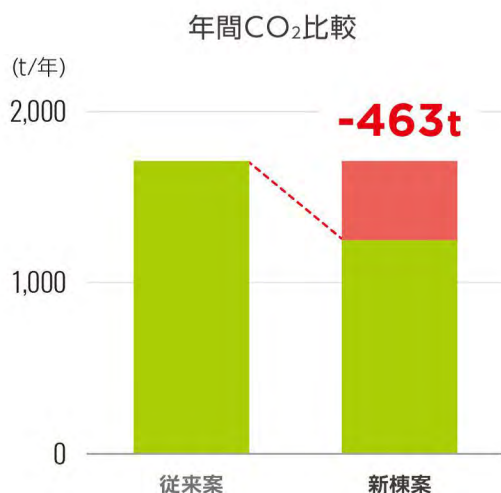
[所在地] 北海道札幌市中央区双子山4丁目3番33号
[診療科目] 精神科、心療内科、内科
[病床数] 327床

空調熱源のエネルギー転換を実施

- 院内の主体エネルギーを従来の【重油+電気】から【都市ガス（LNGタンク）+電気】へ変更
- LNGタンク導入により備蓄量制限はあるものの、災害などによるインフラ遮断時も持続的に都市ガスを使用可能。BCP（事業継続計画）対策にも
- エネルギー転換による半持続的なカーボンニュートラルを実現

CO2排出量を年間463t削減

2019年の新棟建築に伴うエネルギー転換により、年間エネルギーコストは約25,800千円、CO2排出量は約463t削減。
新棟建築全体のイニシャルコストは元より、他 断熱素材、節水機器などの活用も合わせて今後30年間のランニングコストを削減できた。
また当院のエネルギー使用量を削減できたことで、札幌市のエネルギー供給にも僅かながら貢献したと言える。



※2017年11月時点シミュレーション値に基づく

建て替えはゴールではない

病院は公共建築であるからこそ、その持続可能性のためにも建物（設備）寿命、LCC（ライフサイクルコスト）を考慮した新築、及び改修計画を実践していくべきだと考える。

旧棟が30年もったからと言って、新棟の設備が30年間もつとは限らない。メンテナンスが適切でなければエネルギー効率は落ちていくし、エネルギー価格の変動、あるいは新しいクリーンエネルギーがある日 突然利用可能になるかも知れない。

当院は今後も常に5・10・20年先を考え、より省エネルギーでの病棟運用を模索していきたい。その一方で日々のメンテナンスや対策を実行し、安定したエネルギー運用、ひいては安定した病棟運営を実現したい。





包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

5

2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一価値の労働についての同一賃金を達成する。

人事評価制度の再設計



医療法人豊和会 新札幌豊和会病院

〔所在地〕 北海道札幌市厚別区大谷地東2丁目5-12
 〔診療科目〕 内科、外科、消化器内科、消化器外科、肛門内科、肛門外科、循環器内科、人工透析内科、リハビリテーション科
 〔病床数〕 140床

2024年の「働き方改革関連法」施行に向けて

「働き方改革関連法」は2019年より施行されているが、医療機関は長期的な取り組みが必要であると5年の猶予が与えられ、2024年4月の施行となっている。当院でも、人材の定着と能力の開発を目指し人事評価制度を見直している。医療業界は資格専門職の集まりであるため、他業界と比較すると転職も容易である。このような人材流動性が高い業界において人事評価制度を再設計することは「病院の発展」に直結する取り組みである。

「人事評価制度」と「給与テーブル」の連動



ユカリア「人事トータルサポート」の協力のもと、現場にヒアリングを行った結果、以下3点を導入することとなった。

1. 病院目標の明示と、これに連動した部署目標の設定
2. 役職基準と連動した新給与テーブル
3. 職員行動指針と等級役割とに基づく評価制度

まずはじめに指針となる「人事理念」や「職員行動指針」を設定した。当院の強みや大事にしていきたい部分を再確認する良い機会となった。続いて役職ごとの役割基準を給与テーブルを整備

し、現在はこの新給与テーブルと連動する人事評価制度の策定を進め、2023年度の本格運用を目指している。

この新人事評価制度を実行することで、「適正な評価と処遇により、人材の定着・育成、能力開発など『先が見えるキャリアステップ』を実現させること」が可能となる。特に今回の制度は、若い世代からキャリアステップを見通せる仕組みとなっている。

人事評価制度の最適化に向けて

現在「より持続運用可能な人事評価制度へと最適化」していく作業を進めているところだ。制度の導入自体が目的化してしまったり、運用の負担が重くなりすぎて評価に追われ、日々の業務に支障を来すのは本末転倒である。

制度導入当初は上手くいかない部分も出てくるが、そのような時こそ導入の目的・ねらいに立ち返り、職員の働きがいを醸成していけるような制度へブラッシュアップしていく姿勢を忘れないようにしていきたい。

そしてその営みが職員のスキルアップや笑顔に繋がり、最終的には患者へ還元されると信じ取り組んでいく。





各国内及び各国間の不平等を是正する

- 3 差別的な法律、政策及び慣行の撤廃、並びに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。

地域の有事に対応できる医療機関



医療法人ユカリア沖縄 かなな病院

- 【所在地】 沖縄県国頭郡宜野座村字漢那469番地
 【診療科目】 内科、外科、小児科、整形外科、泌尿器科、消化器内科、脳神経外科、眼科、皮膚科、循環器内科、リハビリテーション科
 【病床数】 104床

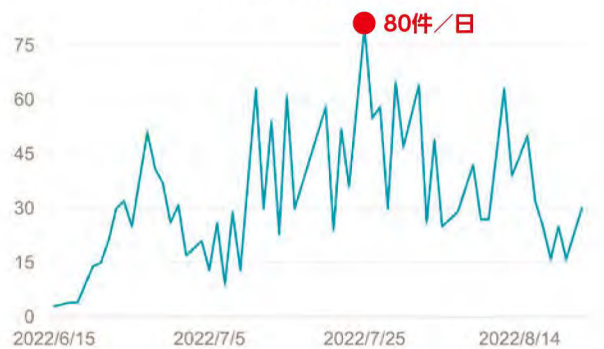


周辺50km唯一の病院でPCR検査体制を整備

当院は沖縄中部・北部診療圏の境に位置し、周辺50kmに他病院が存在しない。そのような立地において今回のコロナ禍で地域医療の拠点としての重要性を改めて痛感した。

2022年になっても続くCOVID-19の流行からPCR検査の需要が高まり、結果が出るのに2~3日もかかる外部委託では住民の職場復帰に遅れが生じ、地域産業に支障が出始めていた。これに応える形で2022年6月に院内PCR検査の提供を始めた。

PCR検査数の推移



ユカリアによる医療機器調達サポート

PCR検査機器の発注ではユカリアの「資材調達・物流サポート」の協力を得て、迅速かつ適切な価格交渉を行い、早期に機器を確保できた。

- ① 検査機器 1台140万円 2台目90万円(同時購入)
- ② 検査キット(24回分) 13万円
- ③ 対面診療の場合、総点数2,821点

当初は1ヵ月90検査を行い、3ヵ月で費用負担できると試算していたところ、15分~30分で結果が判明するスピード性が評判となり、近隣住民が朝から外来駐車場に殺到。6月の半月で303件の検査を実施した。

ピークの7月下旬には、検査数は1日80件/月140件と、地域住民の早期職場復帰に貢献することができた。

宜野座村との連携強化

院内PCR検査をきっかけに村との連携が円滑になった。宜野座村からも集団ワクチン接種や村立保育園の集団PCR検査の依頼が来るようになり、新規患者が急増し近隣住民の車が殺到した際は、村から待機用のテントの貸与を受けるなど良好な関係を築いている。今回の経験を基に、有事に患者のニーズを素早くキャッチして地域と連携し、迅速に対応する医療機関でありたいと思っている。



包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

3

2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。

中間市【人とまち再生力日本一宣言】



医療法人秋桜会 新中間病院

〔所在地〕 福岡県中間市通谷1丁目36-1

〔診療科目〕 内科、外科、整形外科、胃腸科、肛門科、リハビリテーション科、人工透析内科

〔病床数〕 145床



産官学医連携による持続可能なまちづくり

2022年1月25日、中間市（写真/中間市役所）は、九州大学都市研究センターなどと持続可能な発展に向けて協力する「人とまち再生力日本一宣言」を行った。

市民の健康寿命を伸ばし、医療費・介護費の削減に寄与することで持続可能なまちづくりに貢献するという趣旨で、20社以上の企業が参加、「医学住宅」の推進やオンライン診療・服薬指導サービスの提供など、地域包括ケアシステムの推進をはじめとした様々な取り組みを行っている。

2021年4月に中間市立病院が開院になって以降、中間市で唯一の医療機関である当院も、このプロジェクトに積極的に参画し、地域再生に協力していきたいと考えている。

医療のデジタル化を推進

健康総合アプリの開発

「人とまち再生力日本一宣言」の取り組みの概要に「地域包括ケアシステムの推進」があり、予防医療の段階からAIを活用した「病気を発症させない」取り組みとして「健康総合アプリの開発の

計画」がある。

このプロジェクトには多くの民間企業が関わっていて、多数の高齢者にこのアプリを利用してもらう場として、高齢者が集まる医療機関である当院も積極的に開発に協力している。

人とまち再生力日本一宣言

取り組みの概要

- 地域包括ケアシステムの推進
- 自立支援・重病化防止の取り組みの推進
- 介護現場の革新
- 正しい医学情報の啓蒙活動強化

オンライン診療・服薬指導サービスの提供へ

中間市唯一の医療機関である当院は、市民の皆さまが安心して暮らせるよう、どのようなサービスを提供すべきか検討を重ねてきた。

その中のひとつがオンライン診療と服薬指導サービスだ。具合が悪くなった際にすぐさま救急車を呼んだり市外の時間外診療所を受診するのではなく、シームレスに受診できるオンライン診療サービスを構築中で、中間市民の皆さまの利便性を向上させ、より安心して暮らせる「まちづくり」を目指している。





持続可能な生産消費形態を確保する

5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

EUCALIA TOUCH の導入によるペーパーレス化



医療法人浩生会 舞子台病院

[所在地] 兵庫県神戸市垂水区舞子台7-2-1
[診療科目] 内科、外科、泌尿器科、整形外科、婦人科、リハビリテーション科、禁煙外来、乳腺外来
[病床数] 120床



デジタル管理で医療事故リスクを減らす

患者情報をアナログ管理するリスク

- ベッドサイドの注意事項などの紙や付箋を頻繁に付け替える手間
- 更新忘れや外れ・付け間違いなどヒューマンエラーの可能性
- ホコリが溜まったり、衛生的でない
- 病室の景観が悪い

当院は、患者ごとの安静度や食事制限などの指示をベッドサイドにある床頭台に張り紙や付箋を貼ることで管理・共有していた。単純に見た目が悪だけでなく、頻繁に変更したり、入退院・ベッド移動の度に替えなければならず、紙類を大量消費する上、患者の数だけヒューマンエラーの可能性が付き纏う状況だった。電子カルテの導入が推進されている時代に、これではあまりにも非効率、不合理だと考え、今回ベッドサイト情報端末「EUCALIA TOUCH(ユカリアタッチ)」導入に至った。

「EUCALIA TOUCH」はピクトグラムによる情報共有により患者情報を視覚的に確認することが可能になった。さらにバイタル測定器と電子カルテが連動する機能も搭載されており、今まで紙に記入して看護ステーションに戻って電子カルテへ纏めて入力

していた作業が不要となり、看護業務の効率化を実感できている。また当初の目的であった病室の景観の改善と、ヒューマンエラーの防止、医療の安全性を向上できた。

ペーパーレス化は患者のQOL向上に直結

「EUCALIA TOUCH」の導入によって、ベッドサイドの紙や付箋などの使用量を削減できた。また直接電子カルテを閲覧・編集できることで、その他使用されていた紙類についても劇的に削減された。

そしてなにより、業務効率化によって捻出した時間は、患者ケアに充てることができるようになったので「EUCALIA TOUCH」導入は患者QOLの向上に寄与したといえる。これはペーパーレス化による経費削減以上の効果だといえる。



EUCALIA Partner

ユカリアは全国各地の様々な医療機関に対して、その施設・その地域が持つ特性に合った運営・経営体制の構築をサポートをしています。



北海道 札幌市
医療法人
東札幌病院
243床

北海道 札幌市
社会医療法人 鳩仁会
札幌中央病院
180床

北海道 札幌市
医療法人社団
札幌道都病院
188床

北海道札幌市
医療法人 北仁会
旭山病院
327床

北海道 札幌市
医療法人 豊和会
新札幌豊和会病院
140床

北海道 札幌市
医療法人社団 函南会
あしりべつ病院
316床



北海道 小樽市
医療法人 北仁会
石橋病院
372床

群馬県 高崎市
医療法人社団 前橋会
高崎ハートホスピタル
99床

群馬県 前橋市
医療法人社団 善衆会
善衆会病院
198床

埼玉県 白岡市
医療法人社団 白桜会
新しらおか病院
120床

埼玉県 川越市
医療法人
武蔵野総合病院
185床

埼玉県 川越市
医療法人 刀圭会
本川越病院
70床



埼玉県 川口市
医療法人 新青会
川口工業総合病院
199床

千葉県 佐倉市
医療法人社団 愛信会
佐倉中央病院
96床

東京都 葛飾区
医療法人社団 玲瓏会
金町中央病院
99床

東京都 町田市
医療法人社団 天紀会
こころのホスピタル町田
378床

兵庫県 神戸市
医療法人 浩生会
舞子台病院
120床

岡山県 和気郡
医療法人
平病院
89床



山口県 光市
医療法人社団 陽光会
光中央病院
98床

福岡県 中間市
医療法人 秋桜会
新中間病院
145床

沖縄県 島尻郡
医療法人 正清会
久田病院
214床

沖縄県 国頭郡
医療法人 ユカリア沖縄
かんな病院
104床

EUCALIA Partner's Report

— SDGs —

初版 2022年11月1日 発行
2版 2023年 4月1日 発行

発行元

株式会社ユカリア
〒100-6019 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング 19階

デザイン

EoM.llc (よしざきまさはる・野中健太)

印刷・製本

日経印刷株式会社

© 2023 EUCALIA Inc.
Printed in Japan

無断転写・複写を禁じます。

EUCALIA Partner's Report

— SDGs —



EUCALIA

株式会社ユカリア

〒100-6019 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング19階
<https://eucalia.jp/>

